

／ 知れば納得！ ／
自動車リサイクルでの
ユーザーの役割



自動車リサイクル博士が解説！ 世界が注目する

リサイクル料金額の目安	
シュレッダーダスト料金※1	6,000円～ 18,000円程度
エアバッグ類料金	
フロン類料金	
情報管理料金	130円
資金管理料金	290円※2

※1 資源を回収した後に残る
ゴムやプラスチックなどのゴミ
※2 使用済み自動車の引取時の場合は410円



読者である私たちユーザーは、リサイクル制度の一員として、とても大切な役割を担っている。たとえば、ユーザーには廃車を自動車販売店などの引取事業者に引き渡すという役割がある。さらに私たちがクルマの購入時に支払った「リサイクル料金」は、廃車のリサイクル処理において阻害要因となっている「エアバッグ類」「フロンガス」「シュレッダーダスト」の3物品の適正処理に使われる。私たちが支払ったリサイクル料金が円滑なクルマのリサイクルを支えているのである。

ちなみにリサイクル料金の額は、自動車メーカーがクルマの種類、エアバッグ類の個数、カーエアコン用の冷媒の種類などにより1台ごとに設定しており、普通車のリサイクル料金の額は6000円から1万8000円程度である。そして、ユーザーがクルマを下取りなどで手放した場合は、次のユーザーがリサイクル料金相当額を引き継ぐため、元のユーザーにその金額が返ってくる仕組みになっている点には注意をしたい。



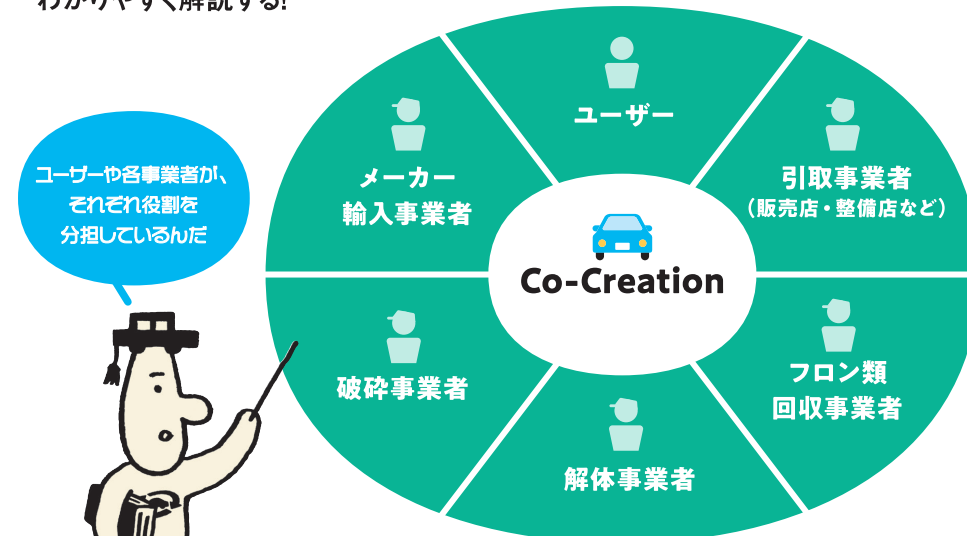
リサイクル料金は3物品の適正処理に使われるよ



ユーザーは自動車リサイクル制度の主役

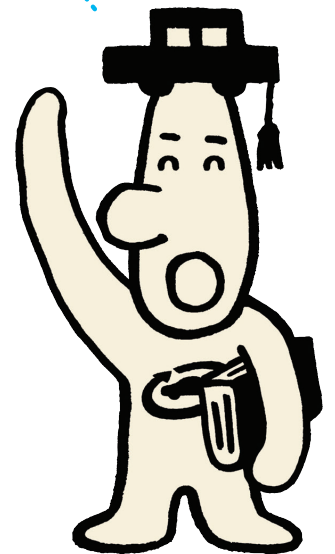
日本の「リサイクル制度」

クルマを購入したとき、スペックや価格のほかに大事な説明を受けたのを覚えているだろうか。それが「リサイクル料金」についてだ。今回は、ユーザーである読者も大切な役割を担っているクルマのリサイクルについて、自動車リサイクル博士がわかりやすく解説する！



世界が注目する日本の自動車リサイクル制度
(ジャパンモデル)

ユーザーが
主役！



自動車リサイクル博士

世界が注目する「ジャパンモデル」

日本の自動車リサイクル制度は、私たちユーザーをはじめ、自動車メーカー、引取事業者、解体事業者、破碎事業者など、クルマに関わるすべての人が役割を担うことで成り立っている。これが、世界が注目する日本オリジナルのリサイクル制度（ジャパンモデル）だ。たとえばヨーロッパでは、クルマの本体価格にリサイクル料金が組み込まれ、自動車メーカーが廃車そのものを引き取ってリサイクルしている。これに対し、日本ではユーザーをはじめ、クルマに関わる事業者が主体的にリサイクル制度に関わり、それぞれの役割を担っているのが特徴だ。



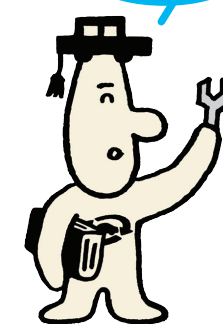
鉄や銅などの資源を素材ごとに分別・回収の役割を担う破碎事業者



廃油・廃液の回収、使える部品の取り外しの役割を担う解体事業者

こうした日本独自のリサイクル制度ができた背景には、日本の国土が狭く、資源が乏しい環境において、モノや資源を大切に使う意識が根付いている。こともあろうではないだろうか。日本の産業はすそ野が広いこともあり、ゴミの発生抑制や適正処理、再利用や再生利用、熱回収などの技術システムを作りあげてきたのである。

理される過程で取り外されたり、リサイクル部品は再使用され、さらに素材ごとに分別・回収された資源が私たちの身近な製品に生まれ変わること、そのほとんどがリサイクルされている。

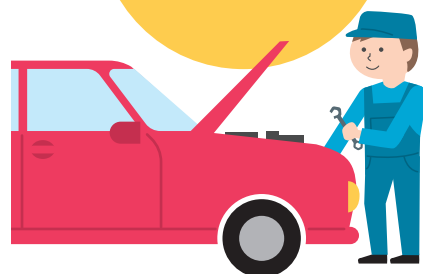


クルマにやさしい行動が、
地球環境にやさしい行動に！

ユーザーには、「リサイクル料金」の支払いのほか、限りある資源を大切にしたり、地球環境の保全につながる行動がある。たとえば、リサイクルしやすい材料や解体しやすい設計に配慮したクルマを選ぶこと、適切な整備により長く安全にクルマを乗り継ぐこと、さらに、リサイクル部品を積極的に使用することなどが挙げられる。リサイクル部品の価格は新品部品より安いこともあり、ユーザーにとって経済的なメリットもある。

リサイクル制度における自身の役割を担うことで循環型社会の実現に貢献しているのである。皆さんもぜひ、クルマにやさしい行動を通して、地球の未来に貢献してみたいかがだろう。

ユーザーは、クルマを長く使う役割も担っている。日ごろからの整備が、故障や事故を防ぐことにもつながる



廃車からまだ使える部品が丁寧に取りはずされ、状態をしっかりチェックした上で再使用される(写真上はドア、下はトランスミッション)

